

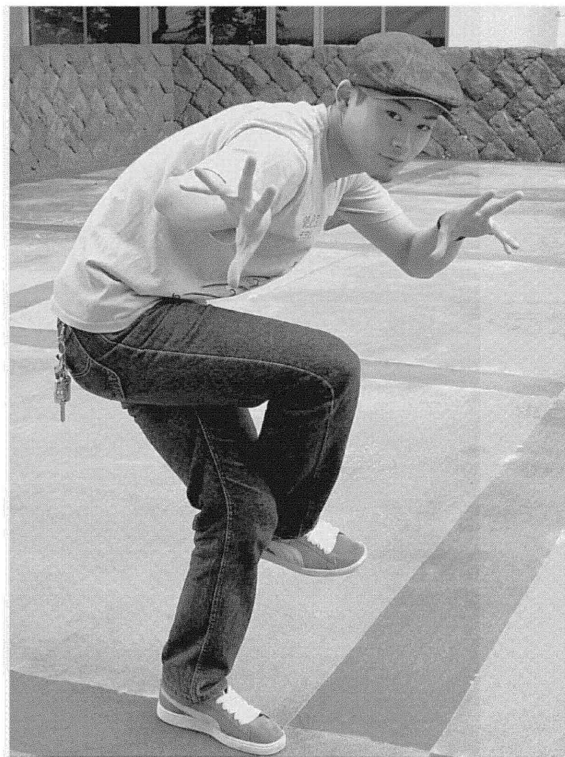
# 狙えストリートダンスのW杯



ワールド・ダンス  
・コロシウム 2対  
2のダンスバトル。  
2人一組でチームを  
組み、「フレイク」  
「ヒップホップ」「ロックン」な

ど6部門で競う。全国6都市の地  
区大会を勝ち抜いた各地区の上位  
2チームが出場し、ストリートダ  
ンスのワールドカップ(世界大会)  
に出場する日本代表2チームを決  
める。今年で4回目。

ワールド・ダンス・コロシ  
ウムに出場する別府大学2  
年の相良望人さん。「ダン  
スは生活の一部」と話す



別府大学の相良さん

## 21日、全国大会に出場

# “まんまの自分”表現

「ダンスに国境はない」をテーマに21日、東京都であるストリートダンスの「WORLD DANCE COLLOSSEUM(WDC)ワールド・ダンス・コロシウム」に、九州地区大会で優勝した別府大学国際言語文化学科2年の相良望人さん(19)が友人とのユニットで出場する。「恐れず、まんまの自分」を出したい」と張り切っている。

鹿児島出身の相良さん  
がダンス始めたのは中  
学の時。今回一緒に出場  
する益森庸介さん(同県  
在住)のダンスを見たこ  
ろがきっかけ。体を使っ  
て思いを表現する姿に  
「宇宙人みたいで『何だ  
これは!!』」と衝撃を受  
けた。高校3年の時には、  
益森さんと「BISOUL  
CRATZ(ビー  
ソウル・クラッツ)」を  
結成。日本テレビ系「24  
時間テレビ」のダンス甲

子園で3位になった。  
1980年代ブームにな  
ったニューヨーク出身  
のダンサー、ケン・ス  
イフトの影響を受けたタ  
ンスは、最近のストリ  
ートダンスで主流のア  
クロバットの要素はな  
く、高さを出しなが  
ら、フロア全体をう  
まく使うのが特  
長。「当時のダンスを  
一言でいうと、ださか  
いい」。気持ちを伝え  
ようと、ひた向きに  
頑張っている姿に引  
かれる。大学では美術  
を専攻。ダンスとの共  
通点は「オリジナル  
をしっかりと見えて、  
基礎を学んだうえで、  
自分らしさを出してい  
くこと」と相良さん。  
将来は美術の教師にな  
り、「会社とちゃんと向  
き合いながら、ダンス  
を続けたい」と力強く  
話す。

困難にぶつかったとき、物事には光と影がある。悪いと思うことの裏を探していけば、きつといいことがある。というダンスの師匠の言葉を胸に刻む。「考え方一つで何事も変わる。どんな経験も踊りのヒント。それを自分のフィルターを通して表現していく」ワールド・ダンス・コロシウムの舞台では踊ることが楽しくてしかたがないという気持ちを、目いっぱい伝える。

(藤田恵子)

### 相良くんのコメント：

今回は、とても多くの人に応援してもらうことで、初めて九州代表として大会に出させていただきました。結果は、あと一勝でワールド決勝に進出できるところを逃してしまう結果で、とても悔しさが残っています。これをバネにして、更に成長できるよう、これからも頑張りたいです。応援してくださったみなさん、ありがとうございました。